2025年2月23日　川越教会奨励

阿久津　信幸

**「ぶれない御方と歩む」**

**聖書　　ペトロの手紙1　1章24・25節**

**こう言われているからです。**

**「人は皆、草のようで、その華やかさはすべて、草の花のようだ。**

**草は枯れ、**

**花は散る。**

**しかし、主の言葉は永遠に変わることがない。これこそ、あなたがたに福音として告げ知らされた言葉なのです。**

**序　中村哲医師**

　先日、中村哲医師の働きを追った映画「荒野に希望の灯をともす」を観ました。彼をご存知の方は多いと思いますが、簡単に紹介します。彼はアフガニスタンとパキスタンで35年に渡って病や貧困に苦しむ人々に寄り添い続けていました。ところが2000年に大干ばつに直面し、医療によって人々を支える限界にぶつかりました。何とかして現地の人々を支えたい、彼の決断は用水路建設でした。困難を一つ一つ乗り越え、**7年の歳月をかけて用水路を完成させました。**しかし、2019年12月、志半ばで何者かに銃撃され、命を奪われました。

　彼の働きは、ここで終わってしまったのでしょうか。そうではありません。多くの人々が、かつて砂漠だった土地に多くの作物を植え、命をつないでいます。医療も用水路建設も、「人々の命を継ぐ」ことが目的であることに変わりはありません。**彼の遺志は、現地の人々にしっかりと受け継がれているのです。**

**1.挫折と立ち直り**

　今日の奨励では、証しを交えてということでしたので、少々取り入れながら話をいたします。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、私は2004年から2007年まで、多摩川キリスト教会の推薦を頂いて、西南学院大学神学部で学ぶことができました。ただ、**決して模範とは言えない信徒**で、献身などおこがましいと言われてもおかしくないにもかかわらず、よく送り出してくれたものだと今でも思います。

　卒業した学生の多くは、牧師や学校の先生に就きます。しかし、数は少ないですがそうでない場合もあります。同期を送り出す側に立ち、たいへん寂しい思いをしたことは事実です。でも、主は別の道を用意してくださいました。佐野芳朗牧師の後任である野口日宇満牧師の紹介によりここに転会しました。人には**目標をもって一歩を踏み出しても、別の道を歩むことがある**と改めて思い知らされました。ここに導かれた時は先が全く見えませんでしたが、皆さんの励ましと祈りによって元気を取り戻し、今に至ります。今、ご一緒に信仰生活が出来ていることを嬉しく思います。いつも覚えて頂いて感謝致します。来年度は執事２期目、どうぞよろしくお願いいたします。

**２.目の前の現実**

　今日の箇所であるペトロの手紙Ⅰは、イエス様の一番弟子とされるペトロが、迫害に遭っているキリスト者に向けて書かれたものといわれています。私たちは迫害とまでは言えなくても、今後の教会生活に漠然とした不安を抱えているのではないでしょうか。これは、ほぼすべての教会が直面している問題であると思います。少し前のバプテスト誌に、教会消滅の報告が掲載されていました。一つの教会が役割を終えて去っていく(非常に寂しい表現ですが)という、厳しい現実があることを示されます。最後まで残っていた教会員たちはどこへ行ったのか、消滅の報告を読む度に思いを巡らします。近隣の教会へ通い続けていたり、有志で家庭集会を開いたりしていればいいのですが、それができなければ、信仰を保つことが厳しいかもしれません。

　少し古い統計になりますが、2023年6月現在の教会・伝道所一覧に依りますと、教会・伝道所は全国で317か所あります。その中で無牧の教会・伝道所は38か所あります。約一割という、厳しい数です。多くの教会が将来に不安を感じているのではないかと見ています。川越教会でも、人が少なくなったり、財政が厳しくなったりと、不安にさせる要素があるのは確かです。特に、高齢化は避けて通れません。世の中全体が高齢化している現状では、致し方ありません。だから、「若い人たちを」といっても、限界があります。教会のこれからを今話し合っていますが、むやみに拡大を目指すのではなく、ひとまず現状維持を図ってはどうでしょうか。私たちはひょっとしたら、信仰生活の困難にぶつかっているのかもしれません。

**3.続くもの、続かないもの**

　マタイによる福音書16章16節で、ペトロはイエス様に「あなたはメシア、生ける神の子です」と信仰を告白しています。ところが彼は、イエス様の十字架を目の前にしてイエス様から逃げ出した過去があります。でも、イエス様は彼に、「しかし、わたしはあなたのために信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」(ルカ22章32節)と仰っているのです。**イエス様は、ペトロが挫折することも立ち直ることも見抜いて話しているのです。**

　ペトロが生きていた時代は、ローマ帝国がユダヤ地域を支配していました。でも、今ローマ帝国はあるでしょうか。ないですね。当時贅沢の限りを尽くしていた帝国も、今日では遺跡にその面影を残すだけです。この世の栄華は「草の花」のように儚く、長いか短いかの違いはあれ、永遠に続くことはありません。多くの人は華やかなものに目を惹かれ、永遠に続くものを見つけることができないのです。

今日の箇所は、イザヤ書40章6節から8節をペトロが引用した言葉です。国を失い、捕囚として生活させられた日々から解放される希望を示される言葉です。この言葉の背景を簡単に説明します。南ユダ王国がバビロン帝国によって滅ぼされたのが紀元前587年でした。でも、南ユダ王国を滅ぼしたバビロン帝国も、紀元前539年にペルシャ帝国によって滅ぼされてしまいました。そして紀元前538年にペルシャ王キュロスによって、エルサレムに**神殿を再建せよ**という命令が出されたことに依ります(エズラ記1章1節から3節)。ここでのポイントは、「神殿を再建せよ」ということです。**一旦滅んだ神殿を立て直す、それは希望を取り戻す**ことにつながるのです。

**4.失敗はマイナスではない**

　ペトロはイエス様が十字架に付けられる前の夜、「たとえみんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」(マタイ26章33節)と言いました。しかし、人々に問い詰められたときに三回「イエスなど知らない」と打ち消し、躓いてしまいました(マタイ26章69～75節)。でもイエス様が天に帰られた後は、力強くイエス様を証しし、「ほかのだれによっても救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」(使徒言行録4章12節)と語っています。**ペトロは見事に立ち直り、弟子としての働きを全うしました。**

　私は結婚相手を探していた時期がありました。でも、相手が話すことはお金の話ばかり、結局は自分が楽な生活をしたいだけかとうんざりし、かなり前にやめてしまいました。いわゆる婚活など、やるのではなかったと悔やんでいます。結婚などしなくても生活できていますし、別の方法でイエス様を伝えることはできます。今はイーグルバスで運転手として働きながら、何人かの人に教会へ誘ったり、聖書の話をしたりと、自分なりにイエス様を証ししています。川越は歴史が長い町ゆえ、神社や寺院が多いですが、教会もあるのだと伝えています。私の存在を通して、教会に興味をもってくれれば大変ありがたいです。これが、今の私にできる伝道です。

**結　恐れず進もう**

今までに、何かに挑戦して失敗したことがない人はいないでしょう。新しいことに挑戦するときには、多くの困難に遭うものです。でも、失敗を恐れずに練習を繰り返してできるようになっていくことは、皆さん経験されておられる通りです。もうひとつ大切なことは、導いてくれる人の存在です。何もわからないままにただ突き進んでいっても、壁にぶつかるだけで新しいものを得ることができず、結局諦めてしまうことになりかねません。それはとても寂しいことです。新しいことに挑戦するときは、知っている人やわかっている人に頼っていいのです。直前の23節に、「あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、**神の変わることのない生きた言葉によって新たに生まれたのです。**」と書かれています。とても力強い言葉です。神様は私たちを導いてくださる方であり、決してぶれることはありません。非常に勇気づけられる言葉です。闇雲に不安になって、怯えるなと神様は言っておられます。

　ペトロは、「自分は何があってもついていく」とイエス様に言ったにも拘わらず、イエス様から逃げ出してしまいました。これは、彼にとって大きな挫折です。**私を含めて、人は皆、弱いのです。**でも、イエス様は私たちを憐れんでくださり、十字架に架かって下さいました。これこそが「ぶれない」という証拠です。イエス様に感謝としか言えません。だから、私たちはイエス様を常に仰ぐのです。

　川越教会は、新しい一歩を踏み出そうとしています。**これからも試行錯誤を繰り返しながら、神様の導きを祈り求める日々が続きます。**近所の田畑を見ると、肥料を混ぜて田植えや種まきに備え、土を馴染ませている様子を見られます。ただし種をまくには、時間が必要です。作物は何にするか、種をいつまくか、話し合いも必要です。「私は植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。」(コリントの信徒への手紙Ⅰ　3章6-7節)。神様の導きがあると信じて、共に歩んでいきましょう。